

式 辞

温かな春の日差しが降り注ぎ、春の訪れを感じる今日の良き日に、卒業式を迎えられた皆さん、ご卒業おめでとうございます。

昨年度までと異なり、在校生が参列し、皆さんの卒業を共にお祝いでいることも大変うれしく思います。

保護者の皆さま、お子様のご卒業おめでとうございます。

心からお祝い申し上げます。

皆さんの中学校生活は、入学式はできたものの、翌日から新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業から始まりました。

いつになったら中学校生活が始まるのか不安や焦り、やり場のない思いを抱えて学校再開を待ち望んでいたと思います。

6月ようやく始まった中学校生活も、毎朝の検温と健康観察、マスクの着用、手指消毒、ソーシャルディスタンスという言葉で知らされた、一定の距離を保つての活動、行事の延期や中止、学習内容の変更等々、今まで経験してきた学校生活とはずいぶんと異なった内容になりました。

新しいクラスの仲間と話す時もマスクをつけて、給食を食べるときはみんな前を向き、楽しく会話しながら食べることもままならず、黙食での食事となりました。

そして、いつしか、そんな日常が普通になっていきました。

マスクをつけることで顔の微妙な変化に蓋をすることができました。顔色うかがわれにくくなり、楽になりました。本当の気持ちも、本当の笑顔も、本心からの夢も、熱い思いも、人に見られにくくなり気楽になりました。

ただし、その一方で、人前で自分の顔や本心を出して、人とかかわることへの不安を今まで以上に感じられるようになってしまっているかもしれません。

美しい大輪の花を咲かせる前のつぼみは、苞と呼ばれる葉が変形したものに包まれて守られています。その苞を残したまま大輪の花を咲かすことはできません。

マスクで覆われた皆さんの顔に、ひととき美しい笑顔が咲き誇る時には、マスクを外して人とかかわるつながりを感じてください。そして、育ててきた大切な夢を信じて歩いて行ってほしいと思います。今まで大切に、大切に、はぐくんだ夢が、これからの皆さんの行き先を照らす光となるように、次の言葉を送ります。

「昨日の夢は、今日の希望であり、明日の現実である」
もう一度言います。

「昨日の夢は、今日の希望であり、明日の現実である」

これは、アメリカのロケット研究家ロバート・ハッチングズ・ゴダードの言葉です。

夢を持ち、その夢に向かって頑張る今日のこの日は、その夢が希望として輝くことでしょう。そして、夢のために頑張る今日の日々を積み重ねることで、将来その夢が現実のものとなるでしょう。

日本中、いや世界中の国々がこのウイルスとの闘いと共存を探りながら進んできて、ようやく出口が見え始めています。

この三年間で社会は加速度的に変化してきました。特にオンラインの発展は目覚ましく、会議も、お金の支払いも、証明書発行等もパソコンやスマートフォンでできるようになり、遠く離れた人ともつながりあえる新しい社会が構築されていきました。

この3年間は決して停滞していたわけではないのです。

この3年間、つぼみの中で育んだ夢を、大きく咲かせられるように、これから始まるコロナ後の新しい世界で、胸を張り、堂々と大きな一歩で歩みを進めていってください。

最後になりましたが、公私何かとご多用の中、ご臨席賜りました 千早赤阪村村長 南本様 教育委員会 教育長 栗山様、教育委員の皆様並びに村議会議員の皆さまを始め、関係者の皆さま方、高いところから 失礼ではございますが、心より御礼申し上げます。

それでは、卒業生の皆さん、皆さんの将来の限りない可能性を期待して卒業式式辞と致します。卒業おめでとう。

令和五年三月十四日

千早赤阪村立中学校 校長 近藤 和浩